

千葉県税理士会船橋支部長賞

税を知る機会

船橋市立前原中学校

第三学年

上村

彩希

両親がよく、「こんなに税金払っているのに・・・」と話している。納税は国民の義務なのだからなぜそんなこというのだろうか。税金を納めているから受けている恩恵があるのではないだろうかと考えた。

しかし、改めて考えてみると、「税金」ということは知っていても「税金とはなんだろう」ということはわかっていないと思った。

そこで、インターネットで税の事について調べると、国税庁や財務省、それから市役所のホームページなどで税の仕組みが子ども向けにたくさんあった。クイズ形式になっているものもあり早速やってみると、全然わかっていなかった。

税金には様々な種類があり、どこに納めるかによって名称も違うらしい。また、使い道も多様だ。

私が直接払っている税金は「消費税」だけだが、私の中学校生活は税金で支えられていることを改めて気づかされた。

さらに考えてみると、中学校に必要なお金はどのくらいで、実際に負担するのはどのくらいか、つまり税金でどのくらいまかなわれているのかなど考えたこともなかった。

さらに調べると、保育園に通っていた時の保育料、病院に行った時の医療費や薬代、児童手当など、子どもが成長していく上で必要なことを負担していた。

これまでは、まったくこのようなことに無関心であったことに気づいた。それはなぜかと考えたら、「税金の仕組み」については勉強したが、自分の事として考えていなかった。

それは、税金で支えられた暮らしがあまりにも当たり前すぎて、考える必要もなかったのだ。

そして、まだまだ自分が税金を払う立場になるのは先だと思っているせいでもある。

税の作文を書く話を祖母にしたら、祖母の母は「払えるものなら税金なんていくらでも払うのに・・・」と貧しかった時代を嘆いていたと聞いた。税金を払えるということは、一定の収入があるということ、だれでも当たり前の事ではないと教えてもらった。

両親が言うように、なぜ高い税金を払わなくてはならないのかと思う人はたくさんいると思う。そんな人はぜひ一度調べてみてほしい。自分の生活の中に税金で支えられていることがいっぱいあることを知るだろう。

「税の作文」で何を書けばいいのと思って書き始めたが、取り組んだことで、知らなかったことを知り、気づかなかったことに改めて気づくことができた。

今回、税金について知る機会を得ることができたので、引き続き税金について考えていきたいと思う。